

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

NITS・教職大学院等	実施機関名：広島大学教職大学院学校マネジメントコース 連携機関名：三次市教育委員会
コラボ研修プログラム	事業名： 「【NITS・広島大学教職大学院コラボ研修】令和5年度三次市スクールリーダー育成研修」
支援事業報告書	研修等名：【NITS・広島大学教職大学院コラボ研修】 「令和5年度三次市スクールリーダー育成研修～所属校の課題解決と受講者の資質能力の向上を目指したアクションリサーチ型研修～」
	開催日時：令和5年6月16日～令和6年2月15日 全5回（5日間） 第1・4回 14:00～16:30,第2・3回 13:10～16:30,第5回 13:10～16:40 開催場所：みよしまちづくりセンター（三次市十日市西六丁目10番45号）他 参加人数（総数）と参加者の属性：（25人）教職大学院教員2人,教育委員会職員6人,受講者10人,所属校校長等6人,教職大学院昨年度修了生1人

内容：

1 本研修は、スクールリーダーを目指す教員を対象とし、年間5回の研修を通して、受講者が所属校の課題解決に取り組む過程を通して成長を目指す「（目標管理と連動した）アクションリサーチ型研修」である。また、「広島県教員等資質向上指標」を参考に、「教職員の研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」による教員研修について、教職大学院と教育委員会との連携・協力のあり方について一つの提案をするものである。三次市においては、今回が初めての研修実施であり、教職大学院が三次市教育委員会の施策の特色を踏まえ、研修内容を設計し、研修全体を運営した。

2 研修の具体

(1) 6月と7月に実施した第1・2回では教職大学院教員が「カリキュラム・マネジメント」と「学校組織マネジメント」の講義・演習を行い、所属校における課題解決のためのマネジメントに必要な基本的な内容の理解を図った。さらに、第2回の演習「所属校の現状把握とビジョンの形成」では所属校及び受講者自身のSWOT分析を通して、9月から取り組む実践を構想することとした。

(2) 8月の第3回では前年度の教職大学院修了者（写真）の実践発表や問題提起を受け、小規模校が多い地域の特徴として、それぞれの学校の状況を踏まえた取り組みを進めていく上で学校の特色を生かした取組につながるよう工夫することの重要性について学んだ。



この実践発表を受け、後半は2つの小グループに分かれ、教職大学院教員がグループディスカッション「所属校の課題解決に向けての戦略」を進行した。ここでは受講者が自分の計画している実践案を発表し、他の受講者からアドバイスをもらい、計画を修正・具体化した。

受講者の年齢層は幅広く、計画している取組は学校全体を見据えたものから少数での取組を意図したものまで様々で、教務主任や研究主任など主任として、また学級担任としてそれぞれの立場で各校の課題から学校組織として解決していく方策についてグループで協議し、ブラッシュアップした。ある受講者は教務主任として「ええじゃん、その姿」をテーマに、小規模校での教職員のかかわりの課題や個性をうまくつなぐことができていない組織課題に、どう向き合い、より良い人間関係を構築していくかについて取組を計画した。ほかにも、生徒指導の課題に向き合い、「ベースアップ作戦!! ～『鵜十タイム』で学力、人間関係形成力向上を目指そう～」をテーマに組織的な取組を進め、生徒の自己指導能力の向上を図ることを目指したものなど、多彩であった。

(3) 11月の第4回も小グループに分かれて、9月からの実践の状況をスライドで発表し、他の受講者からアドバイスやコメントを、教職大学院教員や指導主事からは具体的なアドバイスをもらい、以降の実践に向けての改善計画を作成した。他の発表を参考にしたり、意見交換をしたりすることを通して、所属校の課題解決への道筋をより明確にし、リーダー・マネージャー・メンターとしての役割を意識できるようになった受講者が多かった。

(4) 2月中旬に実施した第5回では、受講者それぞれが実践の成果と課題についてスライドで発表を行った。この日も他の受講者からのアドバイスやコメントを受け取り、今年度の残りの期間や来年度の取組に向けて、それまでの実践を省察するとともに、新たな構想を検討する手がかりを得た。

他の受講者からは積極的に質問をしたり、内容の価値づけを行ったりすることができた。『中間の時に他の受講者からいただいた助言を活かし、改善することができた。』（発表に対するコメントの一例）

最後は市教育委員会の職員から、受講者一人一人の発表に対する指導と講評が行われた。

3 教職大学院教員は受講者がプレイヤーとしてだけでなく、リーダーやマネージャー、メンターとしての役割を意識して取り組むように働き掛け、指導主事による個々の学校の実状を踏まえた指導とのすみわけに留意した。

成果：

- 1 受講者とその所属長に、広島県教員等資質向上指標（30 項目）を用いて事前・事後アンケートを4件法で実施して比較した。その結果、ほぼ全ての質問項目で肯定的評価が向上しており、三つの大区分のうち、特に「組織マネジメント」の「組織・環境づくり」で受講者が 2.26 から 2.88 に、所属長が 2.78 から 3.18 へと大きく向上した。また、「授業力向上への適切な助言」や「キャリア教育・進路指導の取組への適切な助言」で受講者・所属長の肯定的評価が大きく向上するなど、校内での指導的な役割が向上している。
- 2 事後アンケートの自由記述では、受講者が「昨年度までは、『なんとなく』で考え、進めていたためブレしてしまうことがあったり、的確な指示や助言ができなかったりしていました。今年度は、ゴールに向かって計画に沿って進めることができ、自分の中で明確なものがあつたため自信を持って対処ができ、さらに試行錯誤することもできました。」さらに「何よりもっと自信を持ってやっていいんだと思えるようになりました。」と、本研修でマネジメントについて具体的な道筋を示すことによるスクールリーダーとしての成長に迫る成果を得ることができた。

課題

受講者が取り組もうとしている目的や学校内での位置付けについて、校長等と擦り合わせる必要があり、校内に広げていくための取り組みや工夫についても意識化を図る必要があつた。そのためにも、本研修に対する教育委員会・受講者の所属校管理職の期待感を高める必要があつた。

アイデアや工夫したこと：

- 1 研修前半で、受講者自身と所属校の SWOT 分析を行い、所属校の課題を明確にし、自身のミッションと関連付けて課題解決のための戦略や戦術、具体的取組を計画出来るように設定した。
- 2 受講者の実践をまとめた資料集に、学校の特徴や学校経営計画を掲載することにより、「受講者の実践の理由や目的、目指す学校の在り方」が分かりやすくなった。その際、「リーダー・マネージャー・メンター」の3つの視点から具体的な取組について考えたことで、各自が成果や課題を認識しやすくなった。
- 3 教職大学院を昨年度修了した者の実践報告・課題提起を行うことで、教職大学院修了者を中心とした教職員の研修コミュニティの構築を目指した。

<写真・図など>



第1～3回では、マネジメント等の講義の後、各校での取組についてペアやグループで協議しました。



ICT を活用した講義の様子と、第4回の中間評価での報告、後半への改善点のグループ協議の様子です。



第5回は各受講者の報告に対して相互評価や質問を行い、最後に教育委員会から講評をいただきました。